春曙抄一

花草紙ハ清少納言乃著作也ト元輔乃ひとり
ものれ〻ものゝ姓を用ひ〻清少納言ト云フ父乃元輔ハ撰
集乃撰者利倉乃人乃ひとり

清原氏系圖　王族ノ

天武天皇―舎人親王（日本紀撰者）―貞代王―有雄―通雄（賜清原姓）

海雄（流あり）―房則（豊前守）―深養父（内匠允藏人所雑色）

顕忠（アキタヽ　泰元下野守）―元輔（肥後守）―清少納言（此芳成の後也）

宮内卿ハ清原ノ一条院乃皇后宮乃女房ニ
山ノ右大臣ハ中関白道隆公の陰ノ中ノ定ヨリ作ル
草紙乃不ニ〻ニ文乃ハ

三条院乃宮殿景今道隆公女乃腹なる定子様
定子様ハ愚案此草紙乃淑京今乃腹なるハ疑なれど武
法殿乃腹なる人〻ハ皆〻年〻ハ人〻乃変あるを動へ作れ
人〻乃変あるを動へ作れど一条院乃長徳年中長保元年
二年なれど此事ども〻〻なるべき事乃ならんや彼皇后
宮と長保二年十二月十日崩御景今ハ
三条院乃東宮なりしかるに此年乃
ごとくやうなれば長保四年八月廿日乃
崩御なれど程なく変ハ二〻せいきのうちなれば乃
皇后宮乃腹なるべきのうちなれば清少納言
まうかよひしなるべし然ばこの草紙乃
表不〻此草紙かくの如き作んてなく

新古今集云元輔が娘乃家乃こうこふ
清少納言すこうこふ宮ひ
こふれ侍るれば中つかうまつる
侍ものを思ハ是乃ごとくべきそ乃頃も
又云百清少納言百人一首抄云清少納言を後ハ四条乃
うおちぶれ給ふ愚案一条院乃時代乃ごとく
乃腹なる関白道隆定子皇后
さうしに清少納言をもとめて
上臈乃次〻ものうらやましくもあるべき
べきかたなるものの草紙なり
かれ侍せるひく清少納言
関白道隆ひく上東門院八代侍中宮

あづまこしぢうは伊勢の隠家にあるべきを流乃すあるまき
とあるは女こそ男みこあづまうまれどそれどあくか
それをせめひたいとうとの風景(ちげい)景色(けしき)とうちつぎてうせるそれば
彼れうの人は時をうあひ成ぬべきやうとあくまち
ひきに法の納言とけるあれるおうすみ宮うまる
よひうひうとうとひまるをとうとうとひとの
べべひとあるの乃れ感あるるの事をおうさ出ら
うし我れ世よわるやさ事ども物語ひを作る
或説に法の納言撰ちあくく出家うく帝乃後ち
ひをうるうるいべきに社せをとげく彼寺小墓とうく
紙起りひゆ時代ありでいる且はいちぶれるる絶筆の
あいみでうるん年ゑうとうとうとうとうとうや

題号と枕草紙とうるこころは枕草紙うとくあるは枕
しきは枕草紙とかきくさてうれくと出はれうれ
あれば枕草紙とうるやいはは枕草紙乃奥うに宮乃
おまへの内乃ひとのあるうるうをはしは
うへ乃れおうは史記とうるふをあんわせるうとのう
やうとうと枕のうはうはうはうはうしはいさうえうて
あううとうをおやきうとうとうやはやはさせどお
あるるかみれうどとはくさんとにはとはあるぬを
とうあるやとうくいとうとうとうとうとう

ざる物とのこころうやう、双紙はわうをあらくわるう
わりやうぶぶぶぶぶぶ昔物語ぶぶぶぶぶぶ
いさましの文詩やうぶぶぶぶぶぶ我ぶぶぶぶ寶といく
まで源氏物語ぶぶぶぶ双び獲ぶぶぶぶ源氏物語ぶぶぶぶとつけ
ぶぶぶぶ吉田の兼好ぶぶぶぶ山草紙を慶
長せるぶぶぶぶ
りいんをいまめりきぶぶぶぶ
山草紙矣本さるべくぶぶぶぶ或ハ二冊或三冊或又冊一決一
ぶぶぶぶ
ぶぶぶぶ定ぶぶぶぶ
ぶぶぶぶ
ぶぶぶぶ

山巻及島系誰人より中。勧物と山巻とて巻兵八数巻にて
とゝ従ば奥出乃三国沙本三国行くんとゝ
又一本上下二冊湯本とて宮内清原氏乃奥出あり
とわ一紙ゞ行ゞ山ゞ乃中ゞ
等ゞ大きに異也又清ゞ納言乃哥より一昭と出
つゝねず山本と先生乃見ひ
まゞ只山巻及出系数巻にて乃奥出の事れなりもさ
古人乃見ゞ後拾遺千載集新古今
續古今玉葉集等ゞいとゝ清ゞ納言乃哥沢山
皆山本れとゝ又ゞ
出ゞ清ゞ納ゞ記ゞ
乃後鳥羽院乃撰秘抄八宮
延喜式西宮抄小山抄又山双巻
ゝわれゞ行ゞ乃出ゞ
抄事氏舟会氏記一条摂関清原乃
官位乃ゝ八官位令職原抄百寮訓要抄ゞ
ゝ八頂秘名集拾芥抄ゞ勧ゝ名ゝ八尋枕巻
山巻紙ゞ
らゝゞ
ゝ山本乃ゞ
ゝゞ
山巻紙より中古ゝ妻紙乃抄千開抄ゞ
又行ゞ只多年山巻紙ゞ
会ゞ
延喜式西宮抄小山抄又山双巻
ゝわれゞ行ゞ乃出ゞ
抄事氏舟会氏記一条摂関清原乃
官位乃ゝ八官位令職原抄百寮訓要抄ゞ
ゝ八頂秘名集拾芥抄ゞ勧ゝ名ゝ八尋枕巻
山巻紙ゞ

用作り、秘、老及愚者乃歌物語りをせる人、乃官考系圖、
偽あるべし、云云補任、大系圖、系図、花鳥、大鏡、作者部類等りて
なぎさあくり、り所ハ万葉集、古今六帳、三代無りしの、代、、
乃撰集家、集等ハ歌神社ハ日本紀、三代實録、延喜式、
ト部乃家、続等を引ゆゑ、仏乃ろうハを経、を動く、古語ハ漢
家乃諸書よりんぐへ、古詩ハ文選、文集のごひ菅家文草、本朝
文粋、朗詠集など、ものよりて、我弱れ詩、文りハ、類りきと、関事
ゆり、し、詩集、物語、ものよりねば、衣服乃名、ハ、餐物、桃華集
集など、河海抄、花鳥、餐物、あるの類やもと、朝乃名、ハ、源氏、伊
勢物語乃、諸物を、ゆり、土左日記、大和物語、狭衣、宇治拾遺、古今、著聞
江談、なりなど、等れ、古物、ものあ、年、、りの、所書乃、ゆゆ、
双紙乃、偽りとよりぎを、見り、詩、、、、偏ハ、門、人乃、考、、、、

春ハあけぼの、やうく、しろくなりゆく、
曙、ア、ボノ、勝用
ものゆく、
ものは、ものを、
、、、小雅、春、青陽
万物、発生、、、、、
物、、、、、初め、、、、
、、、、、、、、、
春ハ、曙を、賞、、、
少、納言乃、心、、、、
枕双紙、一、乃、形容を
、、、、、、、、、
、、、、、、、、、
、、、、、、、、、

[illegible]

月のあはれ　朗詠　秋夕　秋の夕べ

[illegible]

荻の下露　[illegible]

[illegible]

続語抄　夕まれば

ゆく雁　[illegible]

[illegible]

霜雪の降はて　[illegible]

[illegible]

正月一月　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月八日女叙位給女王禄

八月八日女叙位の儀ありて、女王禄給はる。

十五月ちかくなりぬれば、餅粥節供進上す。延喜式に正月十五日供御七種粥料、中宮米一斗五升、粟・黍子・稗子・胡麻子・小豆各五升、塩四升、云々。文中宮職式に見えたり。事文類聚八月、畑宝典に正月十五日作膏粥の例、御門戸にかけを荊楚歳時記に秀でる根源云々。

十五月八日、きかくきたる。家ごとに女王ちごのうをいつくしみたてまつる。家ごとに女王ちごのうけうあるべし。ねんぶつしやうじやうこうわうこうをとりてかたむけきたるどころ

さきかくのごとくにもこれをもてあそぶ。ちごのうけうあるべし。ねんぶつしやうじやうこうわうこうをとりてかたむけきたるどころ

名稱國賢名国賢秩滿更任任府返上ス四位ハ位ヨリ四位ヨリ職原抄云凡國司者相當五位已下也然而鎮西位已上
或隨其望應其撰古今之例也
我分乃文ハ学ばうとおもひて学ばうとおもふ人のよわをして笑也
三月三日うくとのごとにてゐるそのこの
杜子美詩三月三日天氣
新長安水邊多麗人
朗詠云桃夜雨輪濕艶波之眼新嬌曉風緩吹不言之口先咲紀納言
事文類聚云桃花生玉澗
柳葉暗金溝梁庾肩吾
柳乃やうにうくいとのごとくにてゐるそのこの
三月三日
花乃ゆきにはきそびしてゐる柳のいとのうくいとのごとくにてゐるそのこの
我集
花ゆきにはきそびしてゐる柳のいとのうくいとのごとくにてゐるそのこの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

濃下紫 金銅金物之楯
と西宮記に検挑毛太上
皇以下四位以上通用
これ姫君乃御車にまた
侍の納をとゝ奈保
ありつゝやうけつられハ
車もて入て人もたゝとと
ゝしに侍乃ゝ多
人ゞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほとめて出るまゝに
はしたなれい　ことなる事なき中
宮はたゞ人なれども世間の生昌ゝまゝひを
ひめとやの　これも枕
生昌ゝ事ゝ別の
姫宮ハ一品女一宮一条
院皇女淑姫中宮定子の
ゝ猶ゝ内親もゝ
わゝのあとめしゝゝ
袖ハ童女の汗衫の下に
きゝ給ふれいはきゝをゝ
こめたゝゝ汗衫ハ童女の
うゝはきゝ給ふゝ
ゝ
ゝ

いとんとそし
きてていぬれい　緋の宮
緋退乃宮　物つゝみ
れどいのうて　号ぶ
ゆうて　宮ゆうて
ゆうて　こゝをさのん
ゆうて　こゝをさのん
ゆうて　こゝをさのん

まうてはうさとぐ　むまれ命ぬしさいわ
そてめのとうてんぐどうろうろうろうとか
せくるれば口こそわて陸おみ山ど
いぬと狩し出くるきぐちあどてさい
つるをこ犬こうのれいくいるぎありき
をせきぐどうのれうぐにさせさそ
うふ内せぐどてあるとうせまいし
なりかるめろんとハかりひけうんや
をあうれぐる。ろうのくなりハかるすむう
ひさふくふまさうぐさくこうあれうど
ひうく。こ四月ようりぬひるつう犬の

ハ天ふの犬の陸脇乃
名出脇を供とる所とる所
かくくかれさる涙うて作る
ミ朝餉間ぼ涙乃南
りあり。狩禁秘おう事
ぬ人ぐたり　勘物云源忠隆
長徳二年正月廿七日義人
西奥守従四位下満忠男
あいこいかりきう
内裏の犬を狩る義人
陸口ぐあるうるう
禁秘抄云犬狩　義人承
御下知所衆瀧口条瀧口
帯弓箭衛所々射大所
無入縁下狩出下裏
くきぐちうて　義人
のうに作るうのく禁秘抄云
着布衣日暮候御遠所
勅使等公役所作を住
職原抄云堪武勇之輩
可補之　誰とも云ぐど値
奥ようりぬくうに四月

犬の　義九年
たうてはう乃犬ぐ陸乃
ふうの犬ども

よろづ乃犬ども　犬乃
犬を四つ　ひさ
こうとやうと　いやしき
ちうとやうさ乃ふ
すまうすきこゆる
やうにすむ山を細流
陸氏すあの者にあ
や禁秘抄云陸厠人ども

かくぐ　幸の字
ぐ狩やくくうとうて
いうる

いくくあるくうろ乃すれぐるふうう乃
犬乃かくひさうくあくふりんや
きくほよろづ乃犬どもうるさぐどふ
らひりのきうとうやうぐどあるものう
きうてあるふいうど犬を義人二人ふくうち
のひ。ぬへしあぐさせのひうるぐのうり
よりくてうてうぐふうふうう乃
くやかきるうろりぐたうひふ
さあんうりとうぐせいふやるれんり
うぐてあきやうぬ。ろうれぐ乃乃ろる
ひきすてりとうぐあうれぐるどする
ろつくうぐようれあきやうげる

犬乃ひとびとけるゐがわのきおひとけで
あるれまろ[illegible]るいぬやそこれどろへゆる
あどつかう。おきるゆまろとよべどこゝみもゆ
いれどそれどいひ。あべとつひこちく
ゆせで。ゑ近てこ[illegible]とよべどそ[illegible]
あるをまげこれこてめせばまろう
う。ゆ。これいおきるゆまろとゑ[illegible]せ[illegible]
それうちこちろまてすてゆりぬこう
れぞ。おきるゆまろとべいよこひてゆ[illegible]せ
ゆれどおきるゆまろとべどちこどおゝぬるゆう
ゆるものをよべどちこどおゝぬるゆう
う。ゆ。ゆれいゆ。これいゆ。ゆ[illegible]ゆ[illegible]

ゆ[illegible]せ[illegible]
日ゆ[illegible]
[illegible]犬乃[illegible]
あゆ[illegible]
ゆ[illegible]
[illegible]
ゆ[illegible]
[illegible]
ゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

推中將　勘物ニ推中將成信四品兵ヲ以平親王同従四位上左近中將ハ名未詳

定能卿記　勘物ニ長保二年三月十七日ノ定能補眞福寺別當

山ちよてゝ　眞福寺ヲいふ　眞名不比等の建立　元亨釋書ニ表

よりたゝ　定能眞福寺ノ別當ヨリ補セラレタル

近衛つさゝ　成信名左近中將ナレバ武勇の職也近衛ヲ門内を警固ス

府ハ名ヲ　府ハ名ヲ警固ス職也　お月成信乃のひしをさゝ

扇ハ　扇ハ成信ノ紋

ゆ　小倉山　成信ノ紋

をゝ　小倉山　成信ノ紋

やま　大和吉野

こゝろ山　こゝろ山　こゝろ山　大和

こゝろ山　こゝろ山　こゝろ山　大和

こゝろ山　こゝろ山　こゝろ山　大和

中午月也　江次第八日闘時
祭起天慶四年四月廿日
平将門乱逆報賽也　又曰
無人自上退到竹堂東次右祖進奉求子畢無人自下退大比礼後便無人退出畢記

くるめ山　くるやま　いもせやま

はの雲　ゆばるえ乃雲　あそぐ乃みね　いやるの

楪乃嵩　山城今昔物語

雲乃上　今昔物語

山城今昔物語

崇尼金葉集　大堂金剛峯寺　基方　備中国

年大堂詣　悠紀方　近江国

菜乃　行基年譜

雲原　信濃

大和　菜志原の

又紀伊国　駿河

菅原山城　朝倉大和　菖下郡

菅谷　紀伊

菅原　信濃

菅原八幡　近江

あべ乃ちる　安倍原はの雲

市ハ　辰市　大和

はぜいちハやまとうあきこ乃

椿市　長谷

椿市　長谷

椿市　長谷寺　十一面観音之利生道場也　十一面二天六天女天皇御宇　徳道上人造立

神亀四年　聖武天皇　公家被建立堂一宇

御明灯心器等

八幡宮

御　八幡宮

名をはきたんとてなのり　おいをとうの
ゐちのくれるよりはるかに人のたてしるん
あをいろの御こうもりをかりてあ人を
乃男ふたりでいとまをいたしぬ　玉御前
のうきれみち　職原抄に六位職事又聽禁色至極籠者
海も
ようこそ　ようきのうこ　かたちのうこ
いせのうこ
わてのそ
たつすれ浦と　うりてうのうちうち
すまれうち

みさごきハ　植武天皇の墓
うぐひすのうたぎさ　かしハだうれうこそ
あめのみさごぎさ
延喜式に百舌鳥ホウ陵の訓もはれ
延喜式廿一諸陵寮に遠陵遊陵とあり伝れども名所なし　八雲みもさきせうこと百舌鳥野の陵　羅城門平安宮御宇桓武天皇在山城國紀伊郡に下畧
かしこうこの　延喜式に法部式に柏原陵　そも延喜式にはこそ
あめのうこぎ　そも延喜式にはこそ
乃山神の陵廟なり

所謂昌陵　宋書に云帝王の墓

洛中

いへハ　陽明門　この名のこと
二条一条とよう　うめ殿の
色東陵門　イせりの
せりの　すがたの
院　とうの　小野宮　こうでい　あぐこのあじ
とうの三条　小六条　二一条
南大宮に東二町　謙徳公の家　大臣寵光の家
うめどのこうや　正親町の小忠仁公の家と桂英小あり　又源義の紀とせりゆくうめ
せりの　清和院なり　正親町の南京極乃西乃母在れ玉雨と桂英小あり

すぐりくのゐん　於助解由小路の南烏丸の西一町。道真公の住所或は多議是善の宅
や。當時歓喜光寺と号し中野一条院月林氏氏あるを枇杷を立て神水伝とす
号いせんゐん　本は冷然院なりしを火災よりうつり大炊御門の南烏丸の西法華の帝釈堂にて山院異代の法院弘仁亭なり
朱雀院　源氏物語にはすくゐんとよめり三条の小朱雀院あり四町四条の西の方城の京にて
とうゐん　洞院なり
小野宮　大炊御門の南烏丸の西惟高親王の家。定頼これを傳領す法性寺殿傳領
ちうだい　紅梅殿なり　天条坊門の小路の南烏丸の西
あぐゐのゐど　賜井戸　一条の北洞院の西にあり角井戸なり
むしやのこうぢ　柳人きこえしもの　柳原三条　さうさうぢうとも　松殿三条東三条四条院誕生の所或は重明親王の家
八条　町の西南北二町。惠信公の家。貞信公大入道殿傳領
こんぢゐ　楊梅の小路の西の方院なり。小六条院の法住寺殿
こ一条　近衛の南洞院の西隣尹通の家。八条山院誕生の所
とこれも拾芥抄なり
法住寺殿のうちの
そとの例のごとし
小のへぐてあるはさうじ
荒海の障子とりかへ
禁秘抄よりの法住寺殿のうち
きりかけ　南北方ふたぎ
清涼殿のうちのすみのへぐてあるはたじのあそんうまれつきのいきてるはぐ
乃ちうちはげあるぐあり　あぐかみ
乃みはぐはのとをあんはうの
はぐはのうちの
はぐはのうちの
はぐはのうち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の行ふ中宮大夫はあり。家
作ふ人ども。ものつかさあるき
ものちさしくしの。上の侍
るを月ごとに。のこる所
なりとなをのこる所れた
きはしもをくし
るれあるさまさまれわか
みくらんを。 殿上人
乃ををとりとりあれる所
をとりて。後の宮殿の所
をとりて。中宮の所
をとりて。
中宮の御方の
百姓の。
中宮の御方の
百姓の。
中宮の御方の
百姓の

中宮の女人なれども
はらの中にて琴をひく
なり　をぐきのをぐの御
村上の御代　六十二代天暦
の帝代なり　延喜帝
第十四の皇子　母は皇太
宮穏子　昭宣公の女也
なり　康保四年五月廿五
日なくれさせたまひて　葬
村上の山陵に葬
奉る　おなじ帝なり
世人ものの女
宣耀殿女御　芳子　菅
神のなりかたち
小一条大臣　師尹公の御
事なり　良房公の五男　母
源頃子　寛平乃御時
さんの御ことは　琴　七絃
河海云　琴は神農作也　くく
元玉紘　宮商角徵羽是
也加女武紘　合七絃也　琴は掛
云長三尺六寸六分象三
百六十六日前廣後狹象
尊卑上圓下方象天地
五絃象五行
陰陽のいきをうけて月
禁秘抄云　御物忌之時
物忌不出御他殿　宮中諸
事於簾中有之　ゆゑ
又云　以御造簡三分計
指御冠纓　御放本鳥
時付花御神事紙　良紙也
ものいみとは迦毘羅衛
国の悪神なり　鬼神の名
は鬼神の名　鬼ちの
すなる地性　鬼神の名
時は山鬼神の名　なり
抑の秘　ものいみ
て冠ゆゑ　簾もつけて
こもりおりすること　なり
抑海
村上天皇の御代　帝の御代の御代
ものいみ　月　古今をかくこそ
帝　すなはちこの御代　三月
れば　きちやうをひき
ものいみ　御　帝の
時　古今　帝の
ものいみ　帝　古今
帝　古今　帝の
ものいみ　帝の
ものいみ　帝の
ものいみ

こゝろ　おくかなしくなりぬ
女院の御ぞくのまゐりたまふ
あべきを敷をうつしたてまつ
基をうつして敷をうつしたてまつ
基をうつして敷をうつしたてまつ
女房
をふかしつかせたまふ
所おりうちゝゝいろ人
つこう　中宮の御ぬしの
をきゝ　ほとのゝ
御をかゝ
さいしやうやうて
女院の御ぬしの
首をうつ　一
帝のうへ
上臈きさきを
うでおをすこ
ひぐすりをなめてやまん
はをの宮の御ぬしの
をうの宮あるをうつして
をうのうへと帝のお
ぐらすし
所さうしにはくうこうをて
境筵也世をはけうとう記
したまふ上りをもまゐ

いで　碁石　ごいしをとりかたをうせめうん
とて　きこえさせあひろんぞいうかゆ
ゝ　おうゆわろんぞおうけうひ
ろん人　うゝうゝやまられ　せめて
帝の御ぬしの　ひろれば　さうゝうやうてすべ
やさせあひろれば　さうゝうやうてすべ
ゝ　碁笥のうちうし
すでにあゝれどすべてはゆぶ
帝　村上帝の御ぬし　碁笥のうちうし
あるをりをりいうであるをすこれ
おめて　助　ひうとをなてをやんと
わゝきさまでおかりゝるすゝ　とき
村上の御ぬし　お用しいぐさまし御退宮の
あるをとぬけうゝあうゝりて
帝の御ぬしの
ゝうけさうしうりけううんをてゝのこ
帝　文章
をしほのうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
ゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

あるこゝろのうちうをて
はをの宮の御ぬしの上をまゐり
こゝろゝゝ　ぬしてをこゝろ
みてゝゝうゝんゝゝゝゝゝ帝
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こゝろゝ
こゝをゝゝうゝのゝゝゝ
明日をてゝのゝゝゝゝ
女院の異をゝゝゝゝ
て内裏をあゝゝゝ帝
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝををゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
切敷　異　人　ゝ
ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
村上帝の御ぬしの
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しひしから　称名院殿は従
よりひしからの百姓じもの
のいくさとかはりて
やあらん　殿原ども
事をもとれてさうとなぬ
そのんされとうれしく
仕そ仕られたる大ぐさう
うそあるんと

内侍のすけ　典侍　相當従
四位　掌侍　同尚侍　典侍四人世職
禁秘抄ニ　典侍四人世職
北堂公卿侍従　世大臣妻
例大臣孫ヲ　有例ヲ
すまいられたるせちをぶす
受領ハ宮の宮　十一月中旬
常寧殿ヲ　帝五節の舞
姫ヲ　内侍ハ小受領ハ
ハ　ハ常ハ等ハ
より二人受領より二人四位
代始ハ二人受領三人
又平　五節の舞ハ公卿
年中行事　多会注等書

どしてしまでいつまでいつくしうれを
又世ちんの方ちうれとうくとこと
そちうれちうどれぞうくとハいは
さうをいつくずやあんうれをある
りくくく

と公びて出てもゆんとて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うぢやまをすると

とこやずどもを〜〜を
独鈷 珠数などよりま
しにおぼえて
ぜしごろり ちかりせ
陀羅尼神咒などを
乃ちをれやしに 読ちり
異本 ませめごろ
彼ちわ ちと 妻 走り
ぶふをとむ さ
あつめて 力 じめる
一門 を 集て 法ちり
初 今 居 ち
さ に つ ず ち ね て
天ふ 験 つ ず ち て ち ち
を ち の け と ち

ちちくにつくえ 人の
人 ほきちすさ
験者の除月ちなと
ちの受ぜ ち
こ り ち と
こ ち わ 彼 人 ぜ 人
の 家 ち ち の と
正 月 の 除 月 ち 必 ぜ
ち ち り 人 と 叫 ち く き
家 人 で ち ば ち ち と
む ち ど も れ ま て 遂 徒
ち ち ち ち ち ち し
ち ち て す ち ち に て
彼 ぜ ち ち の 乗
強 ち も 他 ち て 家 人 ち
の ち ば ち ち む ち の
は ち ち ち ち ち ち く
ち ち る あ ち き ま で
除月の男 暁 れ 官
の除月 八九月 ち 姫 く 議
え と に 法 才 ち ち り 三 月
と ち ち り く く 事 ち ま
ち 法 り の あ ち き と し
ち き ち ち ち く 除月 八

ひをとめれちちくちちちすわち ぢち
ぜにつちちさえね人の家ちくしはかちくちすち
きてたやちあちちちのどもの乃ちく
ちりはちがちちわちちりすむちのどち
ちどちるあちちりきて出入車れちどえ
ひちちくちちちちで乗ちる他ちも紙
ちくとちちりはちちちり酒くひ酒
ちのくちの乃ちりあんちちりぞちるあちつき
ちでちかどちちちち

男して　なてもて退出の方
せ　ぬ　さ　を　と　ハ　ほ　海　り
隠亀（サキラ）　ま　と　ま　り　陛
ゆ　乃　警蹕（ケイヒツ）　た　て　姫　宰　と
い　り　む　こ　き　も
を　る　の　れ　ら　も　や　く　ひ　る　ま
え　る　す　　あ　ふ　ま　る　ま　人
人　も　ハ　ま　ま　ま　ま　を　せ　る　る　ま　ま　ま
笑止（ショウシ）　て　い　と　回　を　え
せ　る　る　る
あ　ふ　乃　お　る　ま　る　と
前司　ハ　ち　れ　回　回　し
と　受　別　く　こ　ま　ハ　後
ま　を　り　る　る　を　お　ち
と　い　ま　ま　ま　必　い　ひ　ま　ま　ハ
下部　ま　の　ま　り　者　て　ま
に　仕　ま　え　ま　ハ　必　ま　る
し　ま　ま　い　今　ま　て　紀　ま
乃　仕　ま　て　て　又　陳　回　ま　つ　き
え　ま　れ　ハ　河　内　ま　ま　威　ま　と
誉　ま　き　を　司　を　も　え　れ　ハ
紀伊乃（キイノ）　お　司　ま　ま　ま　ハ　ま
ま　ひ　れ　と　ま　ま　し

（独下男）

去方なるきこに　禁中（やうとき一ト男）　主天孔愛多のこと
ま　ぼ　ち　の　こ　ま　ど　ぷ　と　ま　の　う　げ　う
裏　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
あ　の　み　く　る　を　を　る　ま　ま　の　ど　も　ハ　こ　ひ　ぶ　み　も
（彼のこと）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）
え　ま　ま　す　ぶ　ま　ま　る　ま　ま　ま　ど　ま　ま
ぶ　顧　し　ま　ま　の　ま　る　ま　せ　ま　る　ま　ど　ま　ぶ
の　の　ま　し
へ　ま　ハ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
イ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ひ　ま　る　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（彼のこと）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）
い　ま　る　ま　げ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
り　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（あ）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（陳回果ての名）
や　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（あ）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（退散）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）　（ま）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

来年の乃ふくを　四ケ年
乃仕業の来年行くべき
ふくを　ハ　ま　る　ま　ま　今
年　ま　ま　ハ　あ　れ　来　年　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
け　ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（艶書）
ひ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
（大事代陪と心ひとし）
（接ラヤ上と礼記ラヤ）
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

産養　産不のこと
我子を我ずゝ小狂俗のことゝ世民ゝ
沙汰行ゝ有。馬餞
ハ張紙の人ゝ物ゝ
雲圖物ゝ
藥壷ゝ
河海物
續命縷　靈縁
綵絲　綵索ゝ
今如わゝハ結ゝ
細流ゝ
枝ゝ
江湖第二日縁所進
拙藏人取之結付畫御帳懸角狂副笠細木爲狂槌未出五尺許可用桃木又四方可削遠代九也失敬暑記内裏ゝ
不善也

ねのなかなるゝ
寢ゝ
ゝ
ゝ

いうぎ　寺ゐうひさうこと退屈とる

日数をくるくるれる用事ハ退屈とる

人ゐあるつくる　畑

家ハ　ハ　南面を　あるもの心のきと

入り　ゐ　又　ふくきとの　いうぐこと　ろうと　かるどいひ　さすうり　すぐ

れいあるものハ　常ゐ居る　ものハ　除去ハ　ものぐ

からくもて　辛ハ　やうくもくもて　こころとなる　ものけりごろ　困や　伏ゐ　あ　わひ　陀羅尼　ねうこと　うんてう　無何

又すれ　ときくもて　あるもの　小てなく　からくもて　らかぢ　ごろし　もちれ　しんで　まえ　火けす

験者

何

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いひたてまつるべし
悪(エビ)やをのがえたてやす
をうねうらやうや
わづかきわるるいと
はけたとうつれる
故実古語(コゴ)をぐるを
たくつふ調(トヽノベ)云ふやこを
事と寧緊金するる
あんし
うるとれあつまりて
そもかきはよ一切し
ばるまぐるあるぐらう
あるう　さやうの人寝
さすぐきあれども
わりまき狂れぐあるぐ
ちよかうてねるせる
にこと人はけの見とも
あきがみくさとく
あるうう　たく
いてたぐ　まるるや
うようとうるせる
烏帽子(エボシ)はかさる意

いひたてねをばえんじうまづ人わづうり
きわるる事をばわれとちたうする
事乃やうふこと人うとかちたうべつと
いとめし　ぬきうんとなるふれどふたく
ちごかとれあつまりてとびちがひ鳴る
たのびてくる人又たうくかゆる犬いうち
とこうかけべし　はるまぐうあるぐち
ある不うかうてせる人乃いびきたう
る又人うふたのびくくる不よあぐ
たぐ　たうくばとぐる人うとしとまど
ひたるれぐよ　ぬうつきはうりてうよ
わやいうるせるいくぐうめて

ぬぐかけるをうちかづきてはうくと
あくくもいとふくしどもうの乃すて
まてこうきぬ乃うちをうくいと
しそれとやをうひきあげく出入
するはさうにあくず　又やり戸あど
はくくあくもいとふそしすうる
ぐるやうくはうくありやくする
あうたなれむさうじるぐもあめ
とれひてまるこ牧乃わうぐ
よ名のりくかわれよりとびあ
つくそぜさへうのわどるあるこう

ともかうのすて　帽額(モカウ)
簾也本風ともくく
こんきぬれうくく
こんぐきぬ乃ふぐ
きて落る者すうる
イこうぐ乃ハ鍬匙(クハ)
やをくひきあげく
やうくにうくとう
掲(カヽ)てや帽額(モカウ)乃簾(スダレ)ハ
ぐくくくるよ上て
出ハぐあるぬるぐ
目きうきとみくと
くあめて　きをめて
とくむでしそくす
やそ表井ハうぐうて
おくさうくうぐすくも
くあめくくとある
うるくし源氏ハ簾(スダレ)をよ屏
風くくむきとくくきて
そくぜさへ乃れれぐう
彼ちうきさうれれぐよね

風ふきて新よあるうて
みぎらく

我のりてみきし
ひ車をうて我のり
ゐるべし

さいはずる　才狂や
人をうごき知を知て
我才えをあるハさん
とする心

ゆとりて　ひとりて
云扶をやを知ハ早
ゆ上をやをうひさ
ますまも

いとふくれ　きうめく車ふのりて
あるくものうをきうぬるやあらん
とをとふうて我のりるふうのくるまの
ぬ巧へよう　ゆどりあどするふ
巧出てくるひとりさいはずるものすべ
てさ出ハわるもおくるもいとめて
ひ物ゆどりあどするる我ちりさ
ヨくるハあと出くいひくーるどする
ねどゑ乃そ見ゆるく
あるくるよきくるるあど
ゆうきて　勢
ちりとうて
ものあど

きてぬいりくてうどやうう化ひし
ぬるふて　私乃里亭
みてもはりであるとあんとなりふ人乃き
くるふそくねを立くるをわがくるふ
あるものども我かうちちきてならぎ
くるとこうひどわよひきゆるどくる
いとふくうひよひきゆるどくる
くるの立りどわよをへやうあること
ひうくるみくることふて　わが立る
人まてあるれど　ひくるひくる女のすをうひあさ　女のるう
かわいい出りるどするもるてれどへ
よくれどあをふくやりてくうたのあ

調度　調度屋
一説　調度屋
とひあるるる

寝ぎき
本く　法ちりいこす
れども能くるれて
ゆきあをねごきと法
ちの印りふさあるて
いよ面りて　新参の
ゆあくくるわ仕者
ゆ作くて畑義へそ
ゆるゆ云　法ちんど
するどゆくきく
わりちくへくて
只今おちりかくて
支物れ中みて
ゆくてきりかり　琴

従者

見れば二尺ばかりの
さしをあるねやもあり
さしあるちいさき
八幡ふちてさもれば
ら出てくぼかの忍び嬢
を知らぬあわび貝をて
べし
ちゑひて誦文をもて人
是本ちゑひてすぐ
ずんじゆのしあり
面白さのや誦じ行る
と文をとりてすぐ
ぬ。捨女嚏時頌云休息
万命急如律令
まぐくちく　ちくふ
事なかりさぬ
めめくの男ちくれ
乳母の妻ちくふて第れ
の風く世俗よりて
ものし
ぬやくちて　領を偏ふ
我独とするさあり

ちくんこそひやくれされどうれ
ハさしをいのくねやうもあり
ひく誦文とる人大りこ家れ男ちくあり
でハちくくちるひるるのいとみて
のみもいとあてきねれ生ちふをとり
あるときて　ちくこるやうはすもの　又天
まぐくちく小て
ちくれ女ハさんどらくをよくねハば
なのこをバ　わりはよちて言うい
ぬちくちくふさてうちもさ陸奥
ふるものをいざんしくをひと

あやしくれこれのさうと
乳母の妻乃拾遺高位ふ
れをちくと誹ひ第
ちくとくとられば
妻とちくひちくちる
ひくちくふちくく乳母
乃妻ハふくさこのう
とちくやくる
小一条院を八今内裏ちく
捨女ハ小一条ハ近衛の南
洞院乃高師忠公乃家
一云山吹殿清和天皇
誕生乃所貞信公家ち
ちくちくて大内裏のみ
ハ近衛ハ天ふれおります
ふを今内裏ちくく
拾遺ハ清和乃ハ四条院
おりまちくちくハ一条院
乃はちく
ちくちをれ大弟
高遠　小野宮園白實頼

ちくちくず。あやしくれどこれ
ぐちくを心ハ
自得自賛乃ちく
ふ江いちくきれちくちくちくを
ちくひちくちくちくちくちく
小一条院を八今内裏ちくふかります
殿ち清涼殿ちくくちくの小ちる殿ちくかり
ます。ちくひちくハちくちくの
ちくちくちくちくちくちくちくハ清涼
ちくちくの裁ちくちくちくちくちくて
ちくちくちくちくちくちくちくて
ちくちくちくちくちくちくちくて
ちくちくちくちくちくちくちくて
ちくちくちくちくちくちくちくて
ちくちくちくちくちくちくちくて

乞乃法師の孫を儀政親王の
男大宰大貳正三位
持秘抄云菅絃一条院
十一歳円融院被傳中納
言大貳高遠為御師範
まうけとをかりくし
催馬樂律高砂
[illegible]
[illegible]
[illegible]

又こゝにいるめきゞ人 無礼
輕用人どもきこうとゝ浦島
乃浦乃子れ申とゝて
世をなのめふ去ゆ
鈴ナメこゝにそハあゞ
あるべうもゝ

ゝるゝゞきゝ人のゝこゝに
ゝゝゝ

[illegible]・御門[illegible]
[illegible]
[illegible]

のこりをみくやる
ほるこさいれうも
ちがひ乃絃こゝに
まえうゝもけて人のを
しのきゝるわしども
ひろうゝ　禍の元
イニうゝうゝこゝ
しおうゝ心憑みる
こすると人は　如此とゝ人
いらの心しの直衣指
衣きどけて云ゝ
をのゝ句む人ゝ

上めくゝこくのう
女乃明ゝてねさきに
こやゝ心きこゝでゝと出
めゝきあし心ゝ
かめるこゝをこゝ
むゝねし

ちふわさすとあれど
ゐいきゝをゝゆゝ
名おの中ゆる園中乃
さゐをゝいゝ人し
やゝこゝゐくゝに出ゆき
俗民絵角小ゝ活の中
男小白宮のさねゝよ。
明ゆくゝのゝに書
戸へゝわゝしゝと
ゝふいゝこゝひ出ゝださ
ゝへゝとゐるこゐを
ひゝるの乃ゐつゝ人
そゝゝタ乃よけこゐの
ひゝゝれへゝゝゐゐう
ゐくゝとゝるこゐう
乃をゝゝれて　女乃え
こゝゝこゝゝに名おの中
けゝゝこゝゝ女ゝ乃をゝ
れれゝおの乃ゐ中のゝこゝ
めゝ名おゐきこゐ女ゝ
乃ゝゝゝゝこゝゝゝの中
あゝゐゝ出ゝこゝゝあり
の名おゐゝくゝ出ゝくゝ人は

いひはゝこゝとゝのゝゝを女乃人ゝゝゝ
伊きゝおゐふわゝさゝゝゝゐれゝおひゐを
ばゝゝやゝゝゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

唐鏡也

[illegible]

てゆでねる所をてね人いとふて

こころときめきする物

すぢめ乃こぐひ　ちごあそびする所乃

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

重食　調食
双六乃おうひし

たんやさじ　陰陽師
たんやさじ伊勢物語
[illegible]
[illegible]
[illegible]

唐廂 狩柳も車等
ゆゑゆゑ狩柳とハ
尼眉 半部細代等ハ
皆ゆゑとゝ

ちぐ
班ぐ

あけ　芦毛　白き

かしらもいとしろき
鬣ちぐ尾ちぐも白き
てしゆゑハしろきし馬なり
ゆゑ乃ち公ゑて兵毛白きゝ
射恒集ゆゑ兵毛を候
る哥の中ゆゑ ゆゑ
ゆゑとれハやせ
めるものゝゆゑ
おもかゆゑ
げよ　荒人ゆの雑
色よかゆゑ
ずいぶん　本廂の陸奥

かゝれ
わろ
ろし
乃す
らづ
あ
うと
いと
牛飼
う
わく
ある
れよ

ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

出出てゐ今の年に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]三四人の連れたる[illegible]
[illegible]三四人のありあるに
[illegible]経よみて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小一条大将　師忠公

小一条大将師忠公おなじ小一条左大臣とぞいひしとぞ

[illegible]

曉寒ともいふべき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さねうじの
藤原實方 小一条大臣師尹公の孫 侍従貞時の男 母 大弐雅信公の女
ちゝあきら 未考
もも小一条の家なりと
三位中将 ことに関白殿を
中関白道隆公也 大入道
兼家公の男 母 摂津守藤原
藤原仲政女 円融院の
永観二年正月七日 従三位 中将 蔵人 一条院の
永祚二年五月八日 小
関白 ことに
ぬもしたぶきゝずこてかゝこよこちさ
ゝひあうびてまいとゝ遣されねこの
長兄の作あるあきこの侍従あと家
のこあるくいまするこいでるもこわ
わこもあるきんぶらあどいとおうこて
むこもとずこ月こみけるれぶふ三位の香の麗
中将ここ関白殿をぶきこしぶうの
うもこのふこあれあをこおあ
けぬきこきこすこの侍こるかそ
るこきひこくのいとあぎもかあ
るをきまひこあゆこ入まるこづ
ゝもかろひすこげある中はあこて

中納言 従二位 公の補任
上達部の内名あらかく
へきこもたゝねを
義懐の名をあゝ
おとりをいこいたも
花くこあこやこれを
こをこれで誰もたれ

ようこの中納言
藤原義懐 ハ一条摂政
伊尹公の男 母 ハ代明親
王の女 惟子女王也 花山院
乃寛和二年 小権中
納言 従二位 公の補任
上達部の内名あらかく
へきこもたゝねを
義懐の名をあゝ
おとりをいこいたも
花くこあこやこれを
こをこれで誰もたれ

中納言 従二位 公の補任
あゝここここでそこ
こゝこ
こゝわこゝこ
細流骨也 羅 ハ
こ面 これ 花 ハ
こゝきこ

こゝこ乃中納言
あるべこれどこうこめでここ
ここのこ
ここここ
ひこここ
ゝこここ
ぶゝねこ
こゝこ
乃こあ
ここ
こ
上達部 乃 名あらかくべきこもあゝ
をこれこ
こここ
こあこ

ぬよ山人乃惟まを見
こめて直衣ばかりまさ
まてやまわて車をとゝ
やりまひ一さ角をとる
さんとて出るとの母
又出人おかりくんを
ゐをきこ
ひまもあわりれハ
強流乃車ぞも降て
ちゐ出ばれば強まて未
多る車一池わ
ちちちちち
人乃せうこつきくさて
人乃ひやる清基をく
いひ仲ふさき者あハ人
やさ一多を彼降
さて多車一多ハ
ハとし

いろ〳〵おりく行人えて
何者ぞ人実方乃撰ひ
らてひきのそ
やまの人まハきこれと
きひやりそうの人きの
のくさきもく

いろ〳〵車乃ともあのしるをかし
彼御基ひ仲ふ乃人
ろりひ志用きこちしゆく
ろるろり
久しくこれば使乃
ゐをもちく車の
ちをふ久一く志ハ
舟ちちもしるおん
五ゐの車をハ高ろ
ておこちろんスこと
ち用きこせをこ定
のそて
けろう乃人顕證人也
こゐてハあ多の久上
ま中のこちゐず多
乃強流ゐて強基車を
人やりしこ双ゐの使
かろろ　きこふこゐや
実ゐ一車やてゐろハ
あ一ず彼車ゐを結つ
ゐて使のこ乃ゐる
ほかのろろわ乃ゐ心
ちわ志一頂
久一ゐつゐふ　さゐ

よいづれも多き中乃ろひ〳〵をそも
きろろ〳〵ゐをひけをきゐるや
うゐく〳〵はよろ車乃ろをゐをこせ
ゆ〳〵ゐるどいひをこせゐふおうとゐね
人ゐわ久ゐんを落ゐきゐる車乃ひよ
をしゐろ久れて池ろひきろせてそ
ろをゐゐひてきねろのきろろ
人乃せうろこはきく〳〵ろいひつゐろん
ものひろうとめせていろゐ人まなん
えろく〳〵いておりてゐるいろひやる
べきろちく久ぬゐるばりいひあわせて
やゐとまろんゐ車ハきこゐどいろく〳〵ろ

ひきく〳〵車乃ともあのしるをかし
彼の男車氏ゐろ
ろりひ志用きこちしゆく
ろるろり
久しくこれば使乃
ゐをもちく車の
ちをふ久一く志ハ
舟ちちもしるおん
五ゐの車をハ高ろ
ておこちろんスこと
ち用きこせをこ定
のそて
けろう乃人顕證人也
こゐてハあ多の久上
ま中のこちゐず多
乃強流ゐて強基車を
人やりしこ双ゐの使
かろろ　きこふこゐや
実ゐ一車やてゐろハ
あ一ず彼車ゐを結つ
ゐて使のこ乃ゐる
ほかのろろわ乃ゐ心
ちわ志一頂
久一ゐつゐふ　さゐ

藤大納言　勘物に為光と
按に為光は九条右大臣
師輔公の九男、貞元二年
四月廿四日任権大納言
暦二年九月太政大臣に昇る
恒徳公

人乃ひるがあんことちかふがふとゆく
て中くてとてとてこどおかゆる ふくてこ農
清師也 法華経法華経の名
せいえんくさ乃うくをいろいろ
る心ちちくいくいくこのるや あつさ
乃わびきにうくるこすぎすぎこる
ほかの人の受ける影響とつき用事をと
すぐすぐきをうちをきてこ
敷普さ
すうきてかうんこちはるとこきる
ほかこ
はどのる車乃ちくちんぬ
名産果こと
れるいけべきうこちあ乃ち果
おいそ出あんとてあ人ある車ども小
乗車をすぐやうこ車をたうこ
せうこすれどちくうんうれうこる
労乃車を引出てほかのとも
やくとひさいであけて出ると

ふいうんうちめ 老と
ア也おういかきふん
ちそこうあうそ
やくちうぬもよて
やくハ閑やちうちも
よりハ退めるも佳也
心ハ法乃乃庭の心
て出るを法乃乃方
便品乃 釋迦如來開三
顕一乃法法をとき給
ひんとする時五千人乃
増上慢乃ものを法華を
起て退るを如來默然
して制止ゐなして今
利弗ハ如是増上慢人
退亦佳矣とのたまひ
ふうくてよちち
乃いそく
ふる人乃中ハいら
ぬもちとの
ふふちていそる
ばあるさあれよちちを

上車をうくこ法華ほかの出るをけ
ふくきこ老
ア也ふいとかーくあきさアでハ
うたれいうんぐちめ法ハちくしいみくむとき
法華経をとひいせうをとりまこ
ほかの
ちくうくぬ出てハ人ちて
ほかの
ちくうくぬ出てこれもこうこ
ほかの
ちくうくぬ出てこれもこうこ
ほかの
ちくうくぬ出てこれもこうこ

退出さのうんぞうの心
あり。彼方仮ぞの法衣
をとりてみるに人のまし
はるもでうんけとて
蜜柑ばかりはかりて
よきへらんとこゝ
乃ちわかもとゝ
ぞかをのうひし首尾
あるこし
ちゝのおもふ中納言
乃わかしに　元寛和
二年六月七餘日小花山
院出家せさせ給ひし時
供ふ義懐ことに法師ふ
成ぬひし事心ぞ
花山院御時中納言義懐
八条風情成女心者の
ほとゝぎす各天下乃権を執ぞ
去て出家とのゝ人同出て追て参
きる又義懐ふ知て云外風しとゝ
ぞ乃ぞ又者ぞ
稲去て同く出家と人乃教訓ふ
ぞ

ろかくいのある人へうんぞうと
ほの同じるを
ひくく若大納言
うんけとふてゆきさ
このひくるこうおりそれさてう乃
二十日あまに中納言義懐ことし
ふいみ
乃ちねをよの清ねありやを
をまれとぶふいべくとあるあ
あるこうこうこうこうこうこ
ぞ

来花山院大ぞ
ぞ乃出家ぞ
七月ふ乃
乃残ぞ
乃
ぞ

七月ふ乃
あけ
ねあきて
人たの
いとはや
やのあ
うちあき
てやは
にこそ
人ふい
うとこ

いとはやあるいて
板敷乃ほきをこ
ぞあちきこあさ
凡帳ハ女の形くすめふ
ぞくふハのちきこきを
きあさこ男ふ
を儀家ちに
ぞのこ
おくのうちめうんよ
あやこく奥を乗車
よ共ふに
うとこ

ぞ
ぞ
ぞ

[illegible]

又いづこたちかはらん
又他乃男れかたちゆ
きてるさまの人殿上人
ちの[illegible]
ゆきてのこゝろさまし
あり乃ひとつやしくふ
さぬの　よくらちてつや
あるしイ本紅乃[illegible]
てこゝろあるこゝろ白さす
しの下ゝさまれるか
のすきとうしてゝ

あすかこゝろあやつつや風のあらぶる
くいあくぬを[illegible]きぬを[illegible]をまこめてひきこさてゝ
れるあるわらぐれひとくれるあるあ
やのあるすしのちあるいとちぐく
きねのちるさちひれてもやうぶとみ
あぐうちやりうをれうこにかこれうち
ゝのうちのうちのうち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心ゝ待ち出ところ　て、我きつるところもかゝやとおもひや
そゞし　らゝもかりぬべゝ
出わるゝ人をいかのれもみ
とゝしく　そいおろ
人ハ出ふるあゞしとあるゝ人のるゝ世乃こゝもひあひてゝしゝ男ゝ
なゝこゝろゝとゝわゝとゝろゝのゝるゝ去をゝせゝんゝとゝてゝゝほゝれゝゝゝ
はゝゝてゝれゝゝ出ゝゝこゝれゝゝてゝれゝゝゝ
我きつるゝこゝろゝをゝかゝゝやゝと　出ゝゝこゝれゝゝゝ